

令和7年度 第1回 葵が丘小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年4月24日（木） 14時30分から16時30分まで
- 2 開催場所 葵が丘小学校 南校舎1階 多目的室
- 3 出席委員 小栗 則利、桐村 哲雄、見野 泰弘、若松 由希野
- 4 欠席委員 田村 都弥、伊藤 謙吾、柳沢 照美
- 5 オブザーバー 嶋田 哲也（北部協働センター所長）、鈴木 克隆（北部協働センター）
- 6 学校運営コーディネーター 西原 真知
- 7 学 校 小山 貴広（校長）、佐藤 明世（教頭）、芹澤 純子（CS担当職員）
村上 朝香（CSディレクター）
- 8 傍 聴 者 なし
- 9 会議録の作成者 CSディレクター 村上 朝香
- 10 議長の選出
小栗会長より、年間を通して見野委員が務めることが提案され、全員異議なくこれを承認した。
- 11 協議事項
 - (1) 学校運営の基本方針について
 - (2) 葵が丘小学校いじめ防止基本方針について
 - (3) 夢育やらまいか事業に対する意見書及び「夢育やらまいかCS加算分」予算案について
- 12 会議記録
司会の佐藤教頭から、委員総数7人のうち4人の出席があり、過半数を超えているため、会議が成立している旨の報告があった。

○ 熟議

- (1) 学校運営の基本方針について
議長の指示により、校長から別紙資料に基づき、学校経営の重点についての説明があり委員から以下の発言があった。
 - 主体性の育成について
 - ・ 子供たちに主体性の意味を理解してもらうために、まず『自由』の意味について考えさせ話をすることは、子供たちの理解が深まり大変効果的であると感じた。自由の意味を正確に理解していない大人も多い。校長先生の言葉を土台に成長してほしい。（見野委員）
 - ・ 校長先生の話を伺い、『主体性と自由』という言葉の持つ意味の理解がさらに深まった。（桐村副会長）
 - ぴかぴか清掃について
 - ・ 清掃は、“やらされるものではなく自分のためにやるもの”という気持ちを持ってもらうことが大切。自分で選択して行う、皆で使っている場所がきれいになったら嬉

しいという気持ちで、自然に掃除ができるようになってもらいたい。(小山校長)

→ 地域も同様で、自分の住んでいる街をきれいに保ちたいという気持ちで清掃してくれる方がいる。子供も毎日通う学校をきれいに保ちたいという気持ちが芽生えたら、自然に掃除ができるようになると思う。(小栗会長)

● 学校教育への理解と保護者との連携について

・ 学校について理解してもらえよう、さまざまな機会を作ってはいるが、出席率は減少傾向である。前向きに参加していただけるよう何か案はないか。(佐藤教頭)

→ 家庭教育講座も今年度は早めにアナウンスをしたが、なかなか参加者が増えない。コロナ収束後に再開したが、コロナ前に比べると激減している。(芹澤先生)

→ 子育てについての話を聴くことができ、また学校が主催してくれる講演会は大変貴重な場であると思うが、時間がない・面倒と感じる保護者もいることも事実である。特にコロナ禍に子育てがスタートした保護者は、行事慣れしていないことも要因ではないか。(西原コーディネーター)

→ 協働センター主催のイベントも同様である。現代は、自分にとって無駄か無駄ではないかという物差しで物事を決める傾向があるように思う。昔はとりあえずやってみよう、行ってみようという気持ちがあったように感じる。自分にとって、重要である・有益であるということをアピールすることが、参画率向上につながるのではないか。(嶋田所長)

→ 案内状を工夫したら良いのではないか。内容も大切だが、文章だけでは目に留まらない。もっと見やすく内容が伝わりやすいチラシ形式にしたらどうか。(見野委員)

(2) 葵が丘小学校いじめ防止基本方針について

議長の指示により、校長から別紙資料に基づき、葵が丘小学校いじめ防止基本方針について説明があった。

・ いじめの定義に驚いた。些細な出来事と受け取れることも、本人が不快な気持ちになったら、それは全ていじめと断定される。(小栗会長)

・ ハラスメントと同様な扱いであると感じた。(桐村副会長)

・ レジリエンス(受け流す心・折れない心)を高めるという考えはとても大切だと感じた。確かに現代はこの考えが大人も子供も低い傾向にあると思う。(見野委員)

→ 他校では、保護者向け・子供向けに講演会を開催している。情報を集めて本校でも取り組んでいきたい。また、友達とのトラブルが生じた時に、自分の行動を振り返り、事実をしっかりと伝えられる、相手の気持ちになって考えられる子供に育てることが重要である。(小山校長)

・ 子供だけでなく保護者も過剰に反応しているように感じる。子供同士で解決できることも、保護者が関わることで大事にしている。保護者もレジリエンスについて勉強できる機会があると良い。(西原コーディネーター)

・ 挨拶や声かけも相手の受け止め方次第で、いじめにつながってしまうこともある。全てに過剰反応してしまう傾向にあるように思う。(若松委員)

→ いじめ法は、こどもの命を失わせないことが大前提。いのちを最優先にするので、お互いの心のケアまでは具体的に定められていない。そのため、人間関係の歪みができてしまうこともある。レジリエンスを高められるよう育成していきたい。
(小山校長)

- (3) 夢育やらまいか事業に対する意見書及び「夢育やらまいかCS加算分」予算案について
議長の指示により、教頭から別紙資料に基づき、夢育やらまいかCS加算分についての報告があった。

協議の結果、全員異議なくこれに賛同した。

◇ その他連絡事項等

- ・ 学校支援コーディネーターから今年度の活動計画の報告があった。
- ・ 司会から、次回会議は令和7年6月20日（金）15時から多目的教室で開催する旨の報告があった。